

金堂

金堂は東寺の最大の建物である。ここは病の治癒と癒しの佛である薬師如来の像を祀っており、これらは 796 年の創立以来、金堂で尊ばれてきた。日本の多くの寺は、仏教の主要な神々が祀られる似たような主要な部屋を中心に建造される。7 世紀から 8 世紀にかけて、薬師如来崇拜は天皇と宮廷と深く結びつき、天皇の京都の新都を守るために建てられたこの寺院にふさわしい神となった。

東寺が 824 年に別当となった空海（774-835）の下で拡大をする以前は、講堂が唯一の主要な建物であった。空海は中国で学んだ後に自ら開いた密教の宗派である真言宗の総本山に東寺を作り替えた。

最初の金堂は 1486 年に火事で破壊された。続いた内戦のせいで再建は 1 世紀以上も遅れた。現在の金堂は 1603 年に完成した。この建物は国宝に指定され、薬師如来、十二神将、日光菩薩、月光菩薩も重要文化財である。